

国際交流基金助成事業報告書

大阪薬科大学 薬学部 1年次生 毛尾仁美

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、平成26年3月1日から3月15日の二週間、アメリカのサンフランシスコを訪問しましたので、報告いたします。滞在期間中はホームステイをしながら、EC San Francisco という語学学校に通い、3月8日にボランティア活動をしました。

2. EC San Francisco

EC San Francisco はダウンタウンの近くにあり、通学するにあたり、最適な立地でした。生徒は韓国、ブラジル、サウジアラビアからの生徒が多く、次に、日本、ヨーロッパ系が多く、年齢層も幅広かったです。初日には、学校についての説明から始まり、プレースメントテスト (writing, reading, speaking, listening)、ウェルカムウォークなどが行われました。プレースメントテストによって6つのクラスに分けられます。ウェルカムウォークでは、学校に在籍する生徒で構成される、アンバサダーの方たちが学校周辺を案内してくれるものです。



学校の風景



ウェルカムウォークの様子

次に授業についてです。クラスメートはブラジル、韓国、ロシア、セネガル、コロンビアというような国籍でした。また2人の先生が曜日交代で担当してくださいました。授業内容はある文法に着目し、教科書にある文章を読み、問題を解き、語彙力を高めながら、最後にその読んだ文章についてディベートするという5つのことをします。週末には、題に沿って文章を書きました。特に印象に残ったことの1つ目は、クラスメートの積極性です。文法の問題について質問がある人、と先生が尋ねると質問がないということは本当に少

なかったです。また、質問の質も高く、非常に勉強になることが多かったです。先生も丁寧に答えて下さり、一つ一つの単語の使い方などの知識も増えました。発音についても、生徒が質問すると、先生が発音して下さり、生徒一人一人が発音する、という風に行われました。また問題の答え合わせをするとき、生徒で意見が分かれることがありました。そんなときでも、多くの学生が自分の意見をしっかり持ち、yes だったら yes、no だったら no とみんなに伝えていた姿がすごく印象に残っています。

2 つ目はディベートについてです。この学習では、文章を理解し、先生の話聞き、自分の意見をまとめ、言葉にすることが求められます。ここで、私が一番難しく感じたのは、やはり言葉にすることです。思っていることを英語にし、さらに発音を気にしながら、クラスメートに伝えなければなりません。最初は身振り手振りしながらで伝えることしかできませんでしたが、慣れてくると、ゆっくりでも伝えることができるようになり、少し成長したように思います。またディベートにおいて興味深いのは、そのクラスメートの出身国らしい意見が聞けたり、国が違えど同じ意見だったり、聞いていておもしろく、大変勉強になりました。



授業中



←tongue twister

早口言葉みたいなもので、この授業では「th」の発音(濁る音、濁らない音)、舌の動きに注意しながら、クラスで練習しました。

3. ホームステイ



アメリカでの滞在方法として、アメリカの文化を直に触れられる点と、より英語を話す機会をふやすため、ホームステイを選択しました。ホストファミリーはホストマザーと、ブラジル人の留学生とタイ人の留学生でした。ホストマザーは17年にわたり、33カ国からの留学生を受け入れてきた、ベテランのホストマザーでした。留学生3人はそれぞれ違う語学学校に通っていました。朝は4人でごはんを食べながら、ニュースの話や、この観光スポットがおすすめ、などの話をしました。学校までは、お互いの学校が近い、タイ人の留学生と一緒に通学しまし

た。通学途中にも、お互いの国の話をしました。夜ごはんの時には、今日どこにいった、というような話をしながら、楽しい時間を過ごしました。週末には娘さんとお孫さんが遊びに来て、みんなでごはんを食べました。この時に、やはりホストマザーが普段、私にゆっくり話してくれていることや、一緒にホームステイしている留学生が流暢に話せることを実感するとともに、もっと英語を話せるようになりたいと改めて思いました。

4. ボランティア

滞在期間中にボランティアを行いました。これは drop-in program というもので、申込などなにもせず、集合場所に行って、活動に参加するものです。最初は1人で行くつもりでしたが、一緒にホームステイしているタイ人の留学生と2人で行きました。場所もサンフランシスコの観光地、フィッシャーマンズワープから自転車を借りて1時間弱で行けるところにありました。この辺は多くの観光客が自転車に乗り、ゴールデンゲートブリッジまで行くため、自転車用の道も整備されています。

←ボランティア施設の近くからの眺め





私はボランティア活動として、苗の鉢に生えている、雑草を抜く作業をしました。2時間たち、休憩があったので、ボランティアに参加している方10数名とお菓子を食べながら、お話をしました。ボランティアに参加していた方々の年齢層はすごく幅広く、小学生くらいの子からご年配の方までいらっしゃり、親子で参加している方もおられました。この植物園を管理している方もすごく親切な方で、作業が終わったあとも、サンフランシスコのおすすめスポットなどを教えてくださいました。ここでの作業中に感じたことは、いつもは、ホストマザーのように私を留学生と見て話してくれている人と話す機会が多かったので、話しやすかったです。そうでない方と話すのは、なかなか難しいことも多く、より向上心を持って取り組むきっかけとなりました。

5. 最後に

この国際交流基金助成事業により、大変貴重な経験をさせていただきました。まず、1人で海外に行くという経験はなかなかできないですし、二週間という短い期間ですが、言語も文化も全く違う環境で過ごし、日本の良さやアメリカの良さ、それぞれを感じることができて良かったです。特に日本の良さは、日本から出ないとわからないことでもあります。また、日本について聞かれることがよくあったので、より日本について学ぶ機会にもなりました。アメリカでは、歩いていると友達のようにしゃべりかけられたり、ファストフード店で、横で食べている人とたわいもない話をしたりと、日本ではあまり感じられない、フレンドリーな雰囲気を感じることもできました。英語を話すという点では、できるだけなまりのない英語を話すという意識が高まりました。そしてアメリカに滞在したからこそ、以前より自信もつき、帰りの飛行機では隣の席の方とよく話をし、自分の成長を少し感じることもできました。またこれからも、積極的に国際交流の場に参加し、英語の学習に邁進したいと思っております。この国際交流に関してご支援くださいました方々に深く感謝申し上げます。